

人権教育推進委員会だより

内容

- 挨拶、全国中学生人権作文コンテスト……………P1
- 市内小・中学校の人権教育の取組……………P2.3
- 福生市いじめ防止サミット……………P4

豊かな心の育成に向けて

情報化や国際化が加速度的に進む中、子どもたちが築くこれからの社会は、今以上に予測困難で複雑であると想定されます。そのような中、子どもたちに人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の充実、平和で明るい社会を創造するための不可欠な要素となります。人権課題も社会の変化とともに多様化・複雑化し、東京都人権施策推進指針には、現在17の人権課題が示されています。

今年度、本委員会では、人権課題に関わる差別意識の解消を目指した「個別的な視点からの取組」の充実を柱に人権教育の充実に努めてきました。今年度の取組の成果を市内10校で共有し、子どもたちが豊かな心を一層育めるようにしてまいります。

福生市人権教育推進委員会担当校長
(福生市立福生第二小学校長) 西村 学徳

“Unity in Diversity” 「多様性」と「調和」

人権教育は、自分自身とともに他者の大切さも理解できるようになり、その理解が様々な場面で具体的な態度として現れ、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながることを目指します。そのために重要なのが、“Unity in Diversity” 「多様性」と「調和」と考えます。これは、東京五輪・パラリンピックの指針にもなりました。今後、多様な価値観をもつ人々が互いの違いを認め合い、それぞれの考え方を生かしながら社会づくりを進めていくことがより一層重要になってきます。

学校、家庭、地域が連携し、子どもたちの人権感覚を磨き続けながら、人間性豊かな心を育てていきます。

福生市人権教育推進委員会担当校長
(福生市立福生第一中学校長) 金子 敏治

■ 全国中学生人権作文コンテスト ■

法務省及び全国人権擁護委員連合会が主催する「全国中学生人権作文コンテスト」は、昭和56年度から毎年実施されています。次代を担う多くの中学生が人権問題に関する作文を書くことを通じ、互いの人権を尊重することの大切さについて理解を深め、豊かな人権感覚を身に付けることを目的としています。

令和6年度の東京都大会には、都内304校の中学校と外国人学校が参加し、34,696編の作品の応募がありました。福生市からは、1名の生徒が「作文委員会賞」に入賞しました。

東京都大会入賞作品

「優しさが足りない」 福生市立福生第一中学校 2年 岩瀬 千愛さん



福生第一中学校区

福生第一中学校

人権課題「外国人」



日本ユニセフ協会の方に、世界の子どもの現状や子どもの権利条約について御講演いただき、自分たちの生活と結び付けて、権利についての話し合いを行いました。

福生第二小学校

人権課題「子供」



「子どもの権利条約」の内容や意義を知り、子どもの権利が守られることの大切さに気がきました。互いの権利を尊重し合うために、自分が取り組みたいことを考える活動を人権週間で実施しました。

福生第三小学校

人権課題「インターネットによる人権侵害」



情報モラル教室では、SNSでの言葉の遣い方など、過去の事例を参考にしながら、人権侵害を防ぐ方法について考え、インターネットの正しい使い方について学びました。

市内小・中学校の人権教育の取組

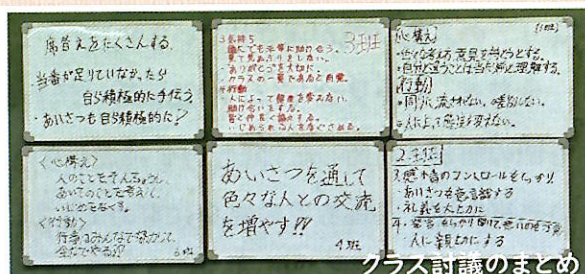
各学校では、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動等、日々の教育活動において、それぞれの目的を踏まえながら、人権教育にも取り組んでいます。

各学校が行っている教育活動について、どのような活動が人権教育として位置付けられているのか、また、その活動によってどのような資質・能力を育てているのか、その一部を御紹介します。

福生第二中学校区

福生第二中学校

人権課題「子供」



いじめ防止サミットを受け、「いじめが起こらないクラス」を作るためにできることについて話し合いました。あいさつや感謝の言葉が溢れるクラスでは、いじめが起きないのではないかという意見が出ました。

福生第一小学校

人権課題「外国人」



日本人がカンボジアの子どもたちに花火をプレゼントする企画を学び、カンボジアの子どもたちに手紙を書きました。外国人の多様性を認め、お互いの文化を交流する良さを味わうことができました。

福生第四小学校

人権課題「高齢者」



認知症についての正しい知識を学び、認知症やその家族の気持ちを理解することの大切さを知りました。自分達にできることについて考え、サポーターとして応援していこうと決意しました。

福生第六小学校

人権課題「子供」



キャリア・パスポートを活用して、2学期に頑張っていたことを互いにカードに書き合っていました。自分の頑張りや良さを改めて発見することにつながり、笑顔のあふれる時間となりました。

福生第三中学校区

福生第三中学校

人権課題「子供」



協調性や課題解決能力向上のために、学年・学級の枠を取り外したグループで異学年交流を行いました。上級生のリードによる意見を出しやすい雰囲気の中で、意見をまとめることの大切さを学びました。

福生第五小学校

人権課題「子供」



自分たちの日常生活で「当たり前」のことが「子どもの権利条約」で守られていることを知り、感じたことや考えたことをICT機器を用いて互いに読み合い、友達を大切にする意欲を育みました。

福生第七小学校

人権課題「障害者」



アイマスクを使った視覚障害者体験を行いました。児童は、目が見えなくても自分と同じようにできることがたくさんあることを知るとともに、ガイドや具体的な声掛けの安心感や大切さを学びました。

福生市いじめ防止サミットは、児童・生徒自らがいじめについて主体的に考えることで、児童・生徒に「いじめは絶対に許さない」という心情を育むとともに、児童・生徒のいじめ防止に関する取組の一層の推進を目指すことを目的に令和4年度から開催しています。いじめをなくすためには、全ての子どもたちの中に、他人に対する思いやりや弱者に対するいたわりといった、互いの人権を尊重し合う豊かな心を育てることが大切です。

令和6年度 いじめ防止サミットの重点

自身の所属している学級の状況や、自身の学級への関わり方を振り返り、学級の一員としていじめが起こらない学級の実現に向けて、できることをしようという態度を育てる。



5校時

代表児童・生徒と高校生によるサミット（ライブ配信でリアルタイム視聴）



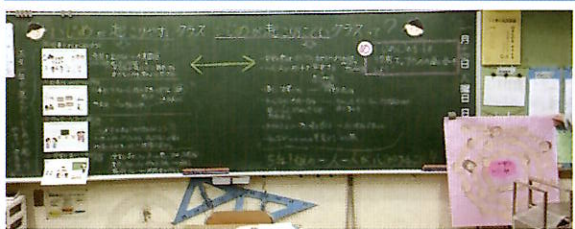
▲ 高校生のファシリテートによる議論の様子

5校時は、福生市役所の会議室に市内小・中学校の代表児童・生徒が集まり、いじめ問題についての現状や課題を議論しました。本サミットには、市内にある福生高校及び多摩工科高校の生徒もファシリテーターとして、令和4年度から毎年参加してくれています。

サミットは、ライブ配信され、各学級で議論の様子を視聴しました。また、一人1台端末を活用し、リアルタイムでアンケートに回答しながら議論にも参加しました。

6校時

市内小学校・中学校の全学級でサミット（協議内容等をオンライン共有）



▲ 子どもたちの意見でびっしりの黒板



▲ 小学校での議論の様子



▲ 中学校での議論の様子

各学級でのサミットでは、「いじめが起こらないクラスを作っていくために」という共通テーマの下、児童・生徒の発達の段階に即し、担任が指導方法を工夫して実施しました。各学級で出た意見等の協議内容は、オンラインで共有するとともに、代表児童・生徒のサミット会場でも紹介されました。

（教員の声）

サミットで得た「学校を良くしたい。いじめをなくしたい。」という子どもの思いや願いを、学校の教員がどのように支え、実現していくか、自分自身の課題にしたいと思いました。



（子どもの声）

自分はいじめではないと思っていたことを、ほかの人はいじめと考えていました。みんなで話し合い、様々な考えを知ることで、いじめに対する考えが深まりました。こういう機会が増えれば良いと思いました。